

ひきこもり家族支援 VR



VR で本人目線を体験。

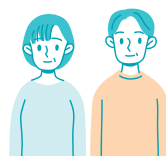
「やりがちな対応」を

ふり返り学習します



ひきこもり当事者を持つ、 家族向け VR プログラム

- ✓ 受診を勧めたいが、どう話せばいいかわからない
- ✓ つい感情的になり、思いを伝えられない
- ✓ 関係性が悪く、改善のきっかけがほしい
- ✓ 精神疾患やひきこもりに対する知識がない



両親・家族

本人との適切な関わり方の
ポイントをVRで体験・学習・練習

家庭での適切な
関わりの実践

当事者本人への
個別支援へ
SST-VRが活用可能

VRを活用した
保護者支援



ひきこもり当事者



施設

ひきこもりの当事者を 支援機関に繋げるために

ひきこもり家族支援 VR は、当事者に社会参加を促す際に有効なコミュニケーションのポイントや対応方法を学ぶことを目的としたプログラムです。



ひきこもり支援の4つのフェーズ 最初のフェーズである、「家族への支援」に特化した、両親・家族向けのプログラムです。

家族への支援

ひきこもり家族支援 VR

本人への
個別支援

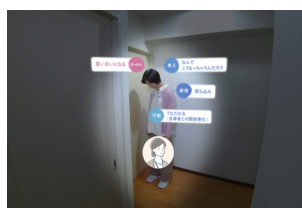
居場所への
参加支援

段階的な
社会参加支援

FACEDUO SST-VR コンテンツ

VRの流れ

全てのVRコンテンツは「状況体験」「工夫発見」「実践練習」の3つのパートで構成されています。はじめによくある場面を体験し、次にどのようなポイントが重要であるかを学び、最後にVR上で実際に練習するという流れで体験していきます。



状況体験パート

やっつけまいがちな、
「よくある対応」を体験



工夫発見パート

当事者の視点から体験を
振り返り、ポイントを学習



実践練習パート

適切な方法を声に出して練習

コンテンツの例

テーマ

「自分の気持ちを伝える」

心配して言っているのに…



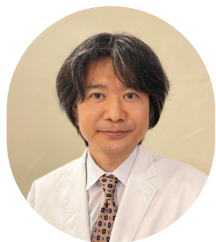
ひきこもり状態にあったり、こころの病気の可能性がある当事者に対して声かけの仕方が分からない方に、当事者のことを心配しているという家族の気持ちを伝えるための工夫を学ぶ。

参加者どうしの 話し合い

VR体験の後、参加者どうしでの話し合いを行い、理解や気づきの促進を図ります。



ひきこもり支援の専門家がコンテンツを監修



北海道大学大学院医学研究院
神経病態学分野精神医学教室
教授 **加藤 隆弘 先生**

私たちは家族がひきこもりや精神疾患への理解を深め、ひきこもる本人の来所・受診がスムーズに進むことを願い、家族からの声かけなど具体的な対話スキルを習得できるように、ロールプレイを盛り込んだVRプログラムを開発しました。こうしたプログラムを基にした家族向けの教育支援が全国のひきこもり支援機関で活用されることで、ひきこもる本人による直接の来所・受診が早まり、ひきこもりの長期化解消の一助となることを期待しています。

FACE DUO
ソーシャルスキルトレーニングVR

販売会社
大塚製薬株式会社
〒108-8242 東京都港区港南 2-16-4
<https://www.otsuka.co.jp/>

開発会社
株式会社ジョリーグッド
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町 10-13
WORK EDITION NIHONBASHI 701
<https://jollygood.co.jp>

ひきこもり家族支援VR
ウェブサイト

